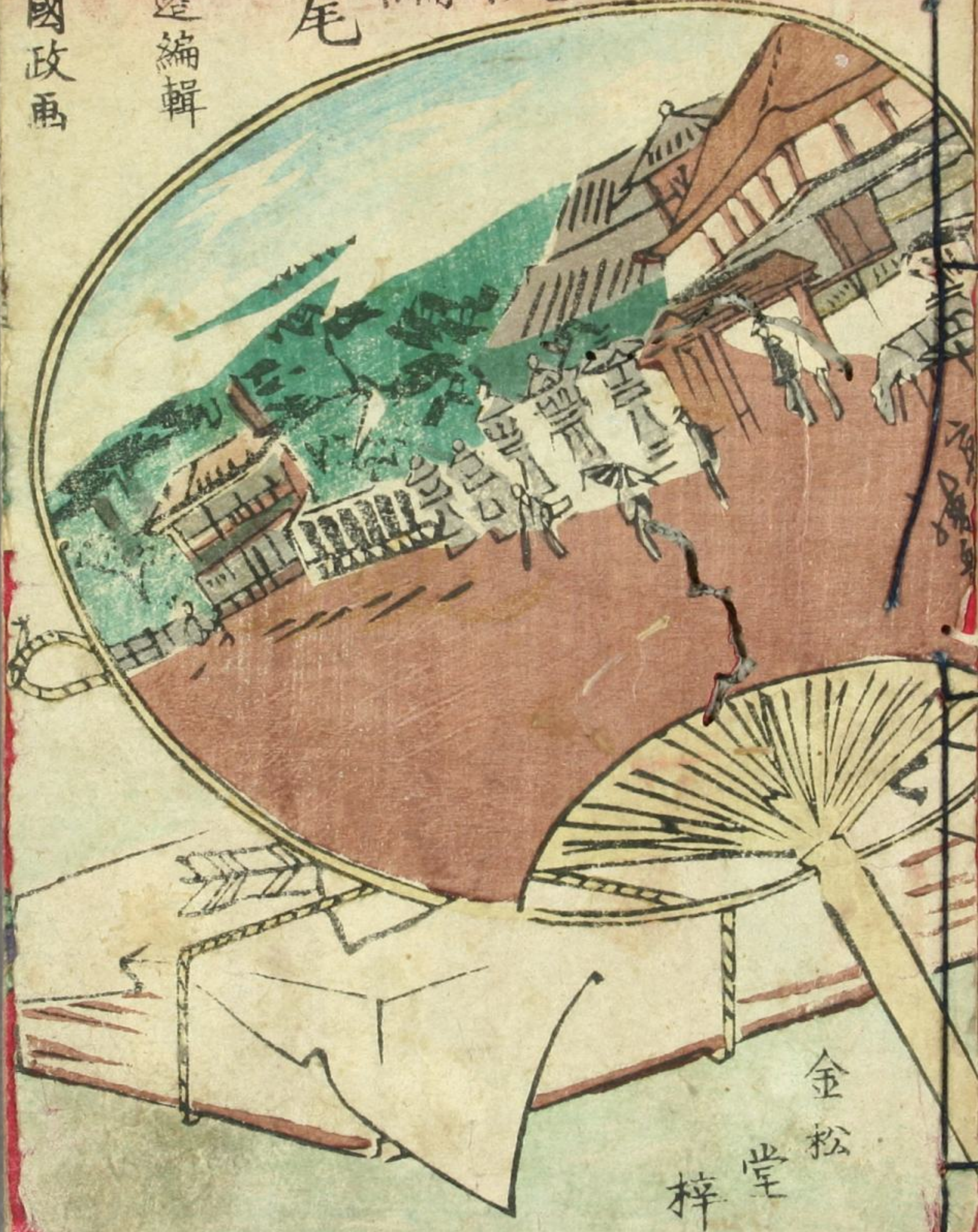


腕競心三侯三編大尾
川上
鼠邊編輯
梅堂
國政画



金松
梓堂

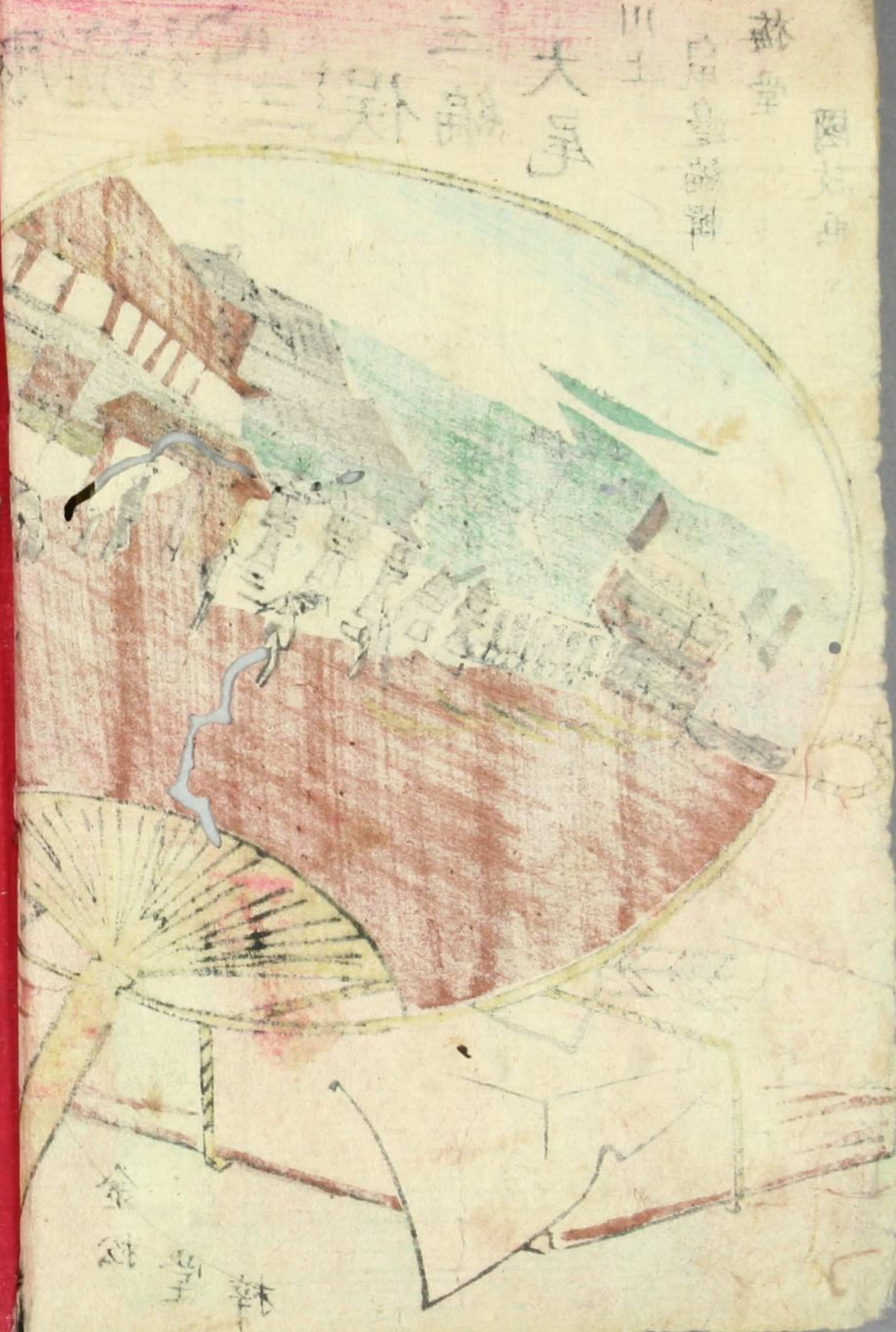
35
30
25
20



川上
還編輯

王子扇屋の圖

上之卷



蘇州
大風

川上
三編

三編
三編

金剛堂 林



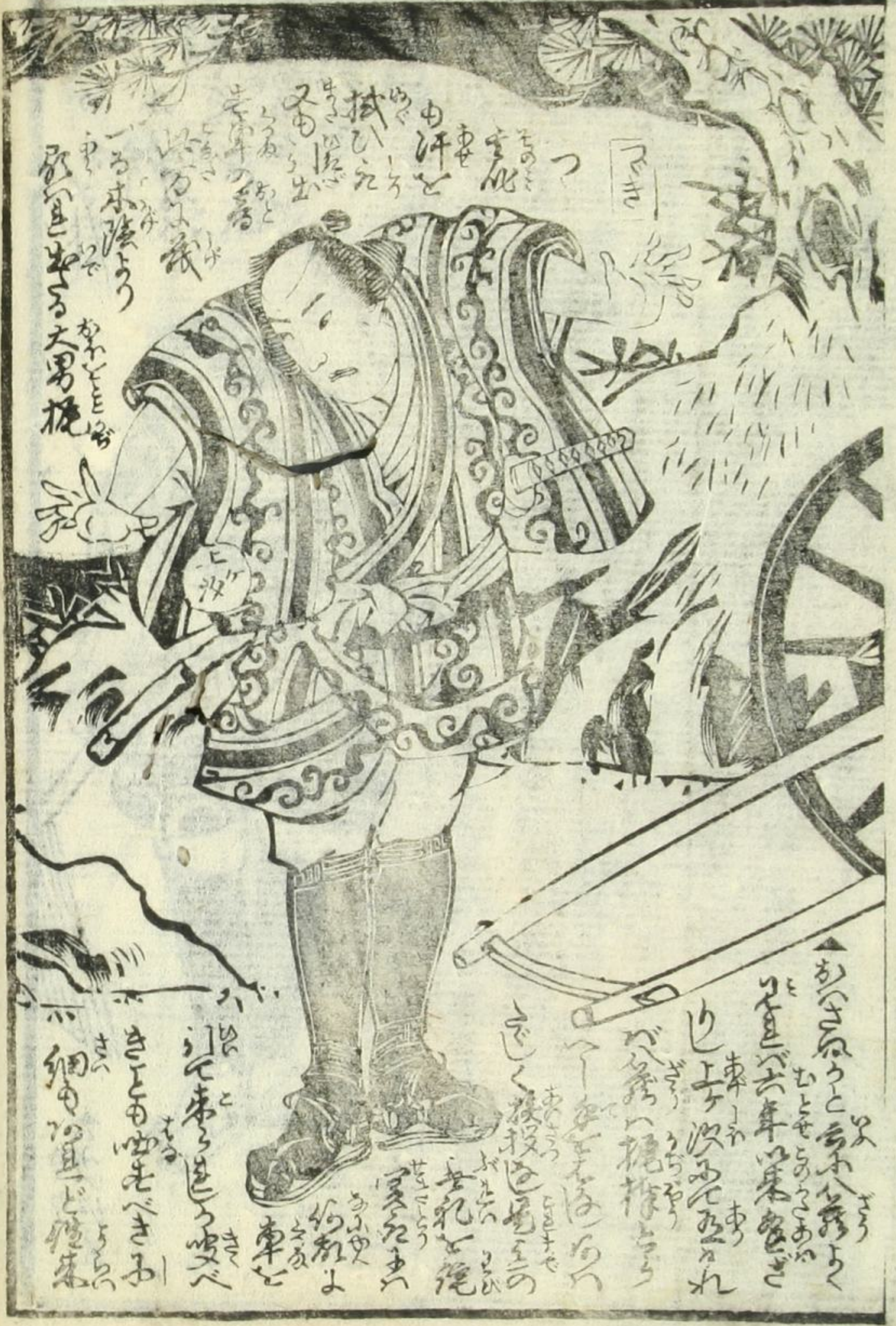
打込櫓の太鼓共発見を初編の文、當世日下開山の
 假名垣老師が引立と力み踏張る儀際淨雲業も諸君子の
 たよりよ本屋も彫工と急ハツケ能哉エイ哉トコイ残ツと
 三編と。昼夜と丁相が矢の催促翌日も待ぬ勢は斯成らうの
 そまよ。何でも構はむ筆任せ未へ如何より押付仕事切ら
 張らり剥らり。飛ぶり刻らり替らる雷神門の定店も縁あるある
 が身末も統よ二丁三丁へ縮まる命も天の罰其徳悪と再作。
 國政子の記者の女房役最早結局と調子と上々。柳の糸と
 搔鳴も小松も傾て大松と茂る枝葉看客方の詠絶せる金銀
 珠玉利有く富頭と。金松堂の藏へ納まる開化を愛出太る也

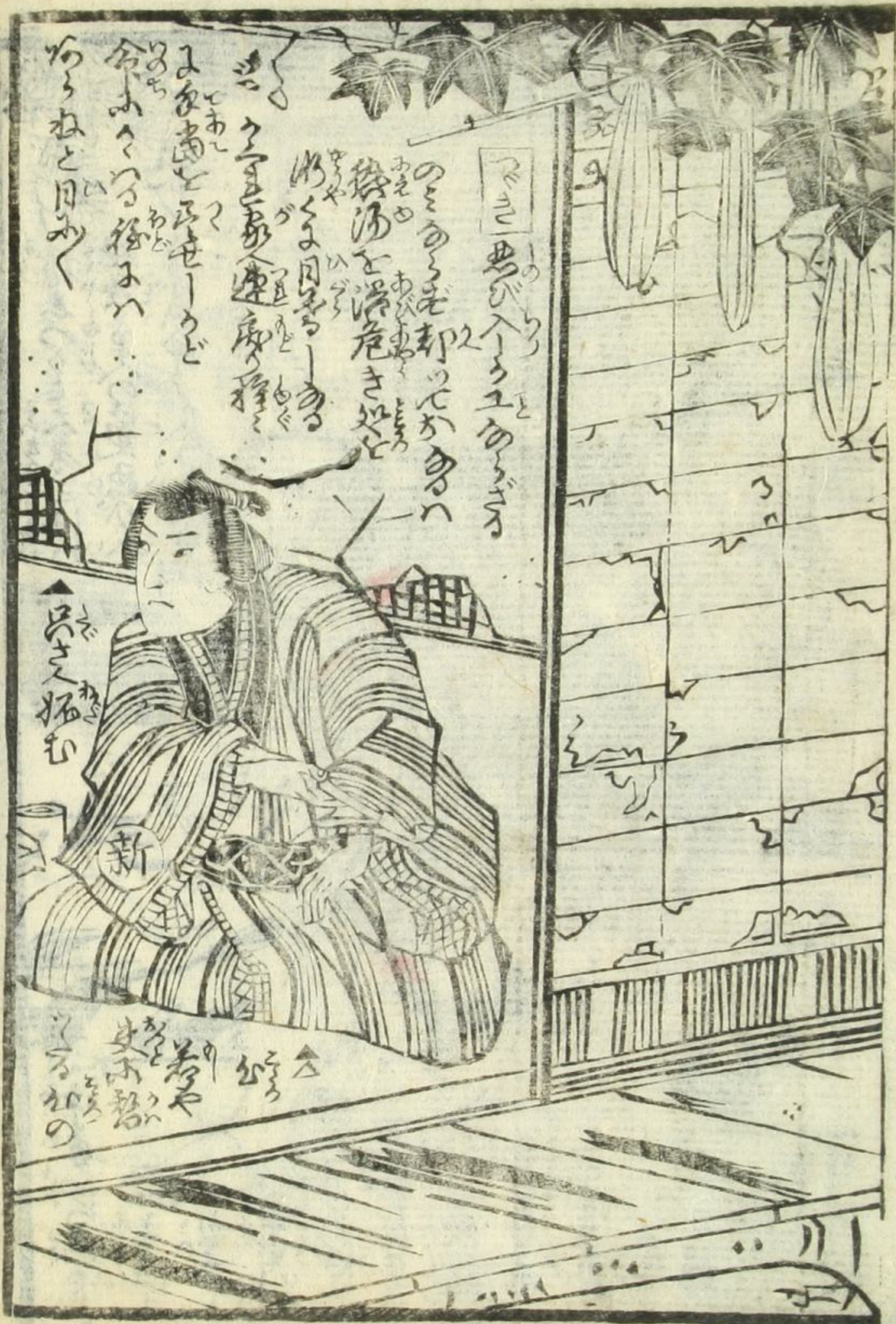
明治十三年辰の水無月

川上鼠邊記



腹立三上



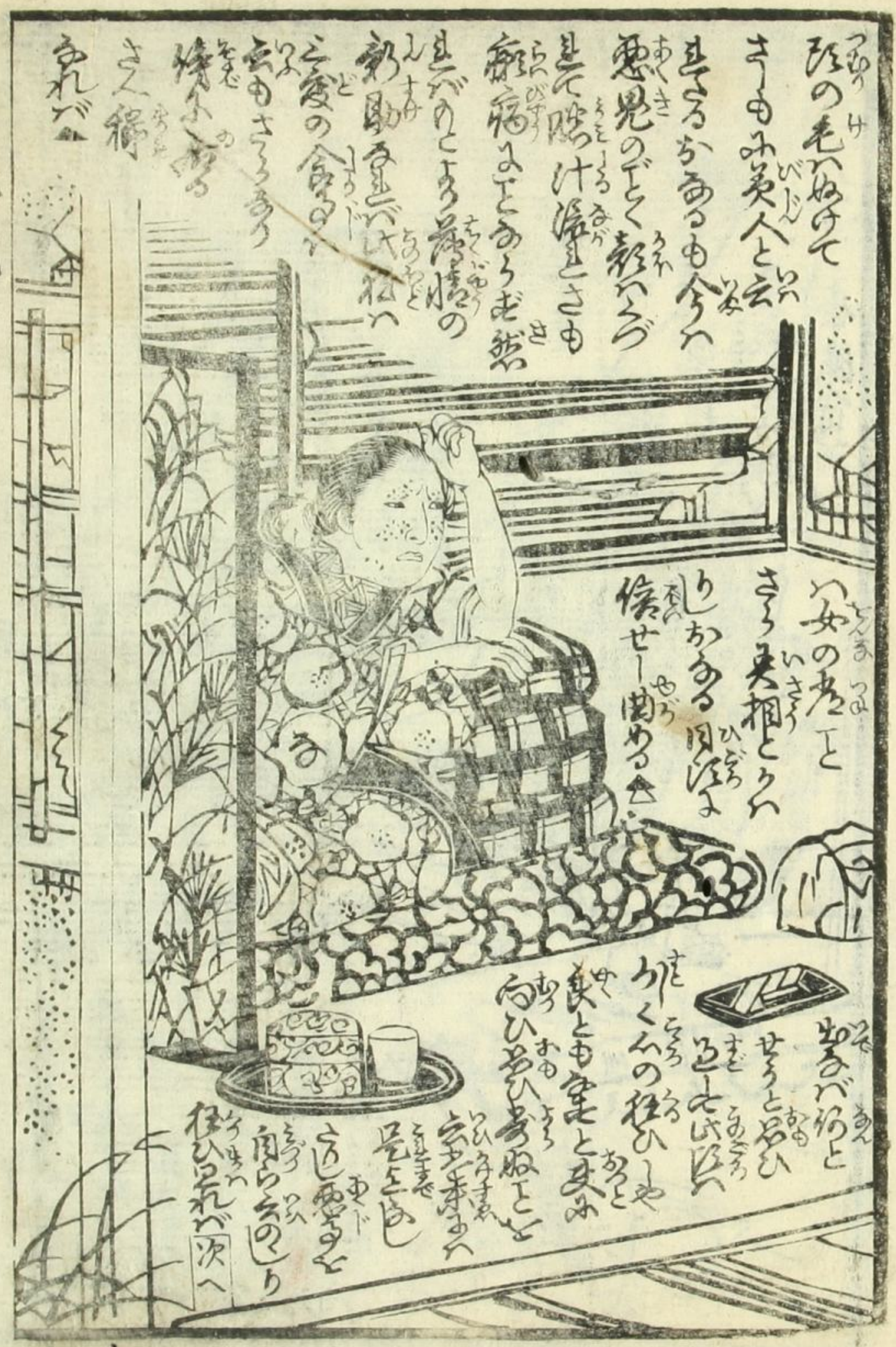


此の老ぬひて
 さゆみ美人と云
 是るかあるも今
 悪鬼のどく殺し
 是れ勝汁海とさ
 病もよとあらむ
 且つりこも病
 初動を言はね
 之後の合
 云ゆさ
 候小
 さ之得
 され

此の老ぬひて
 さゆみ美人と云
 是るかあるも今
 悪鬼のどく殺し
 是れ勝汁海とさ
 病もよとあらむ
 且つりこも病
 初動を言はね
 之後の合
 云ゆさ
 候小
 さ之得
 され

女の老と
 さう其相と云
 りかあるは
 候せぬある

此の老ぬひて
 さゆみ美人と云
 是るかあるも今
 悪鬼のどく殺し
 是れ勝汁海とさ
 病もよとあらむ
 且つりこも病
 初動を言はね
 之後の合
 云ゆさ
 候小
 さ之得
 され



此の老ぬひて
 さゆみ美人と云
 是るかあるも今
 悪鬼のどく殺し
 是れ勝汁海とさ
 病もよとあらむ
 且つりこも病
 初動を言はね
 之後の合
 云ゆさ
 候小
 さ之得
 され

女の老と
 さう其相と云
 りかあるは
 候せぬある

此の老ぬひて
 さゆみ美人と云
 是るかあるも今
 悪鬼のどく殺し
 是れ勝汁海とさ
 病もよとあらむ
 且つりこも病
 初動を言はね
 之後の合
 云ゆさ
 候小
 さ之得
 され

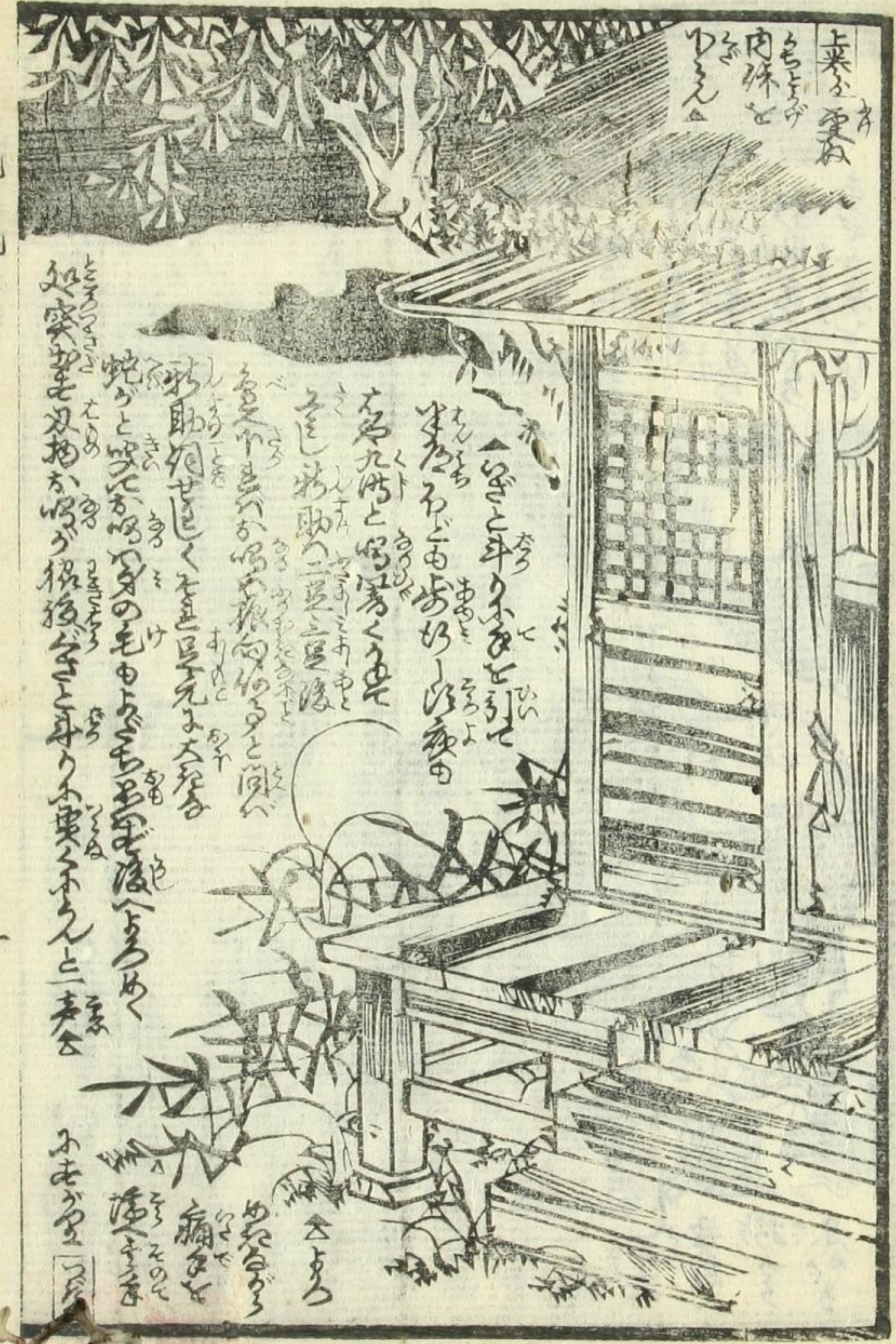
大尾編
三侯心三腕競



中之卷



七色日記三〇

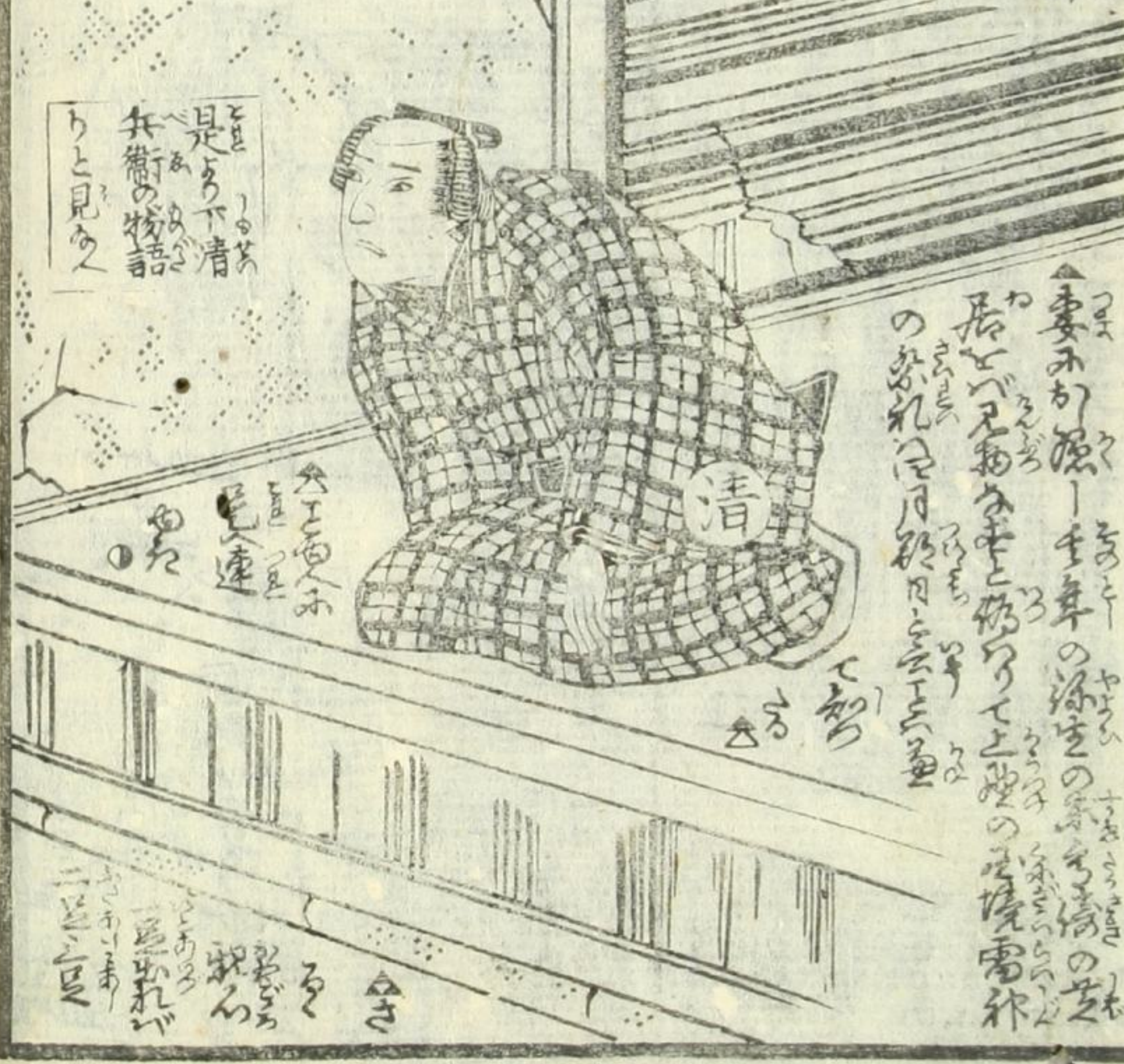


此の年より...
 名九所と...
 蛇と...
 如突...

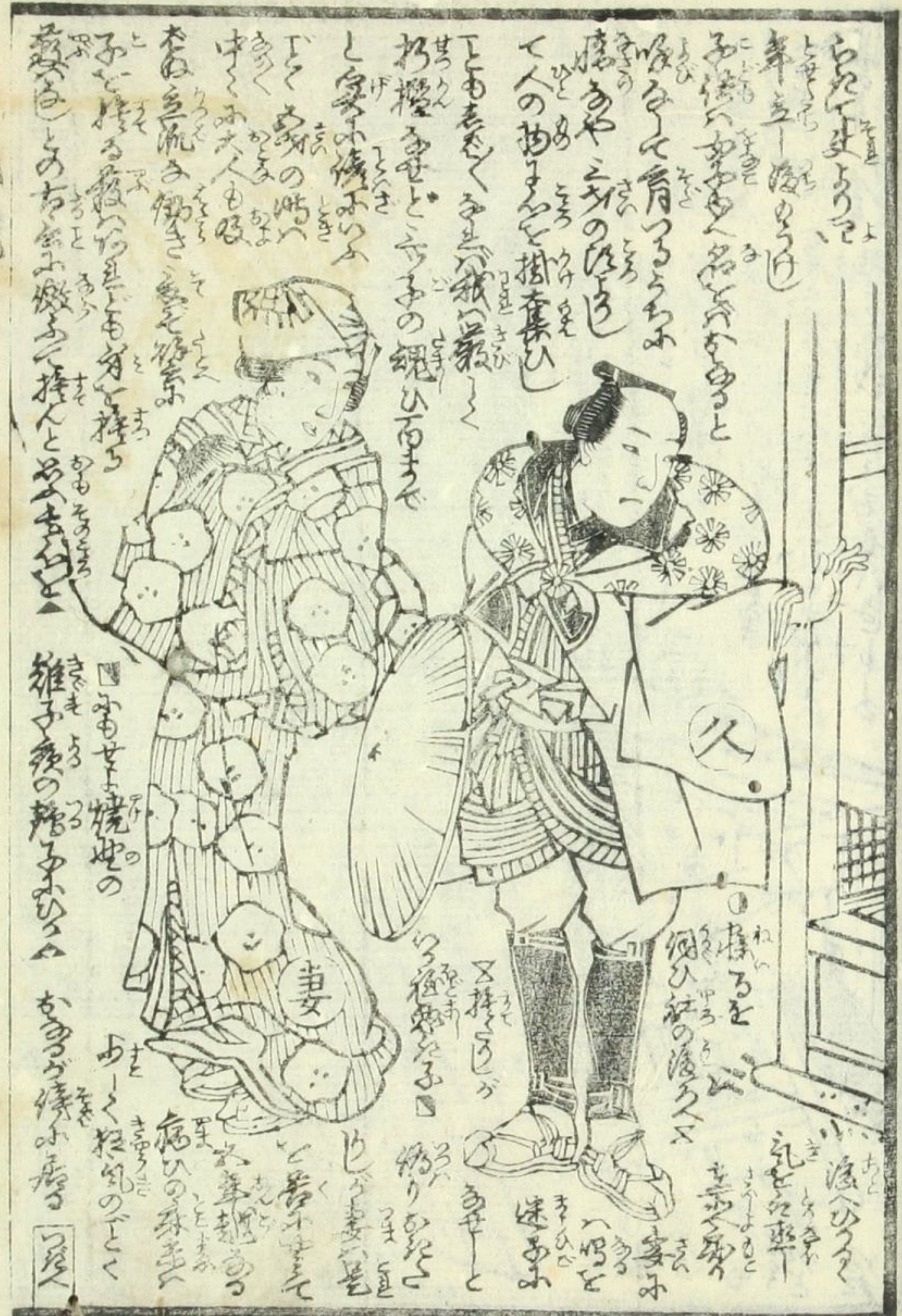


鏡
 競
 心三侯
 川上
 梅堂
 園政画
 金松
 壹板
 中
 の
 卷

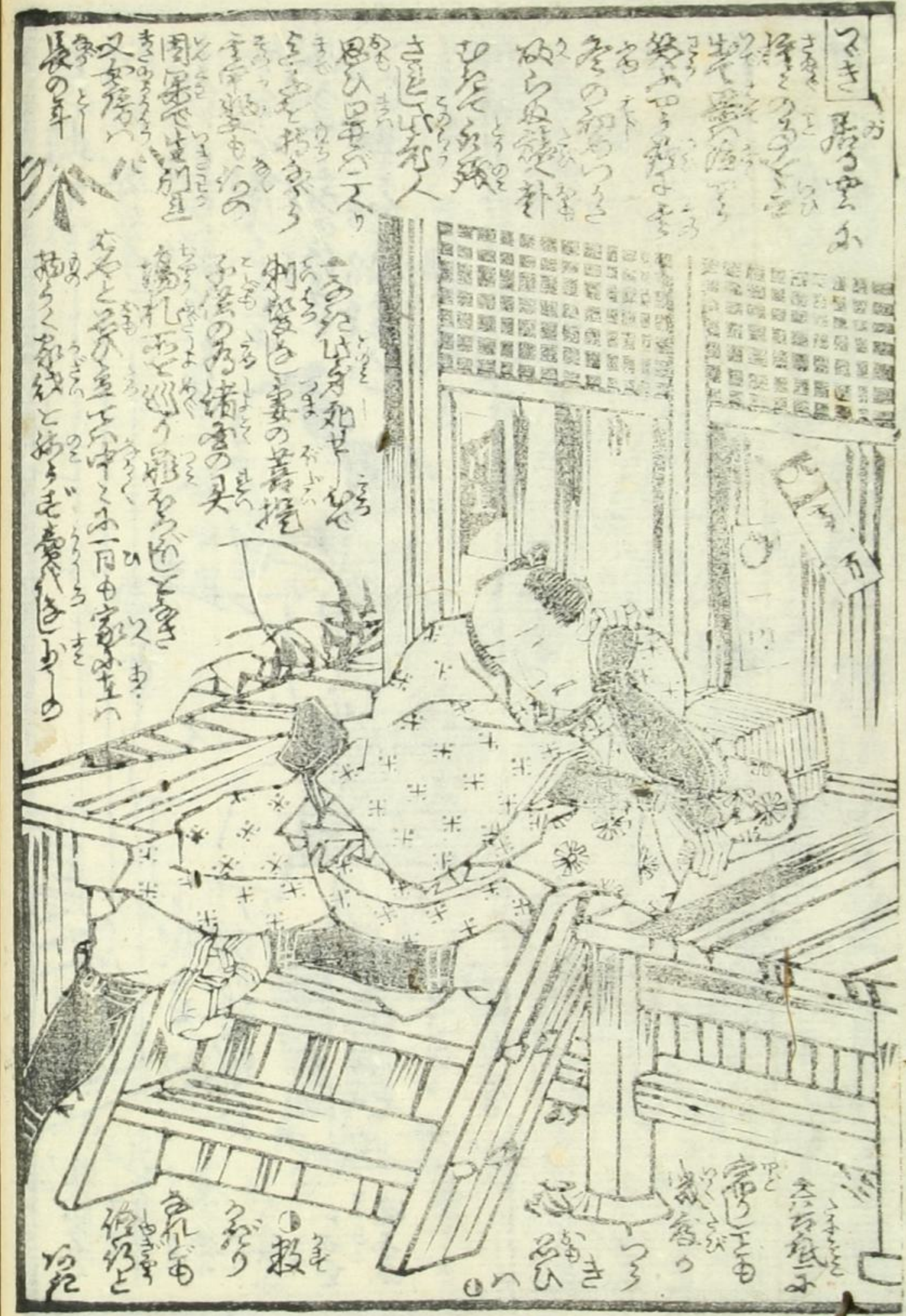
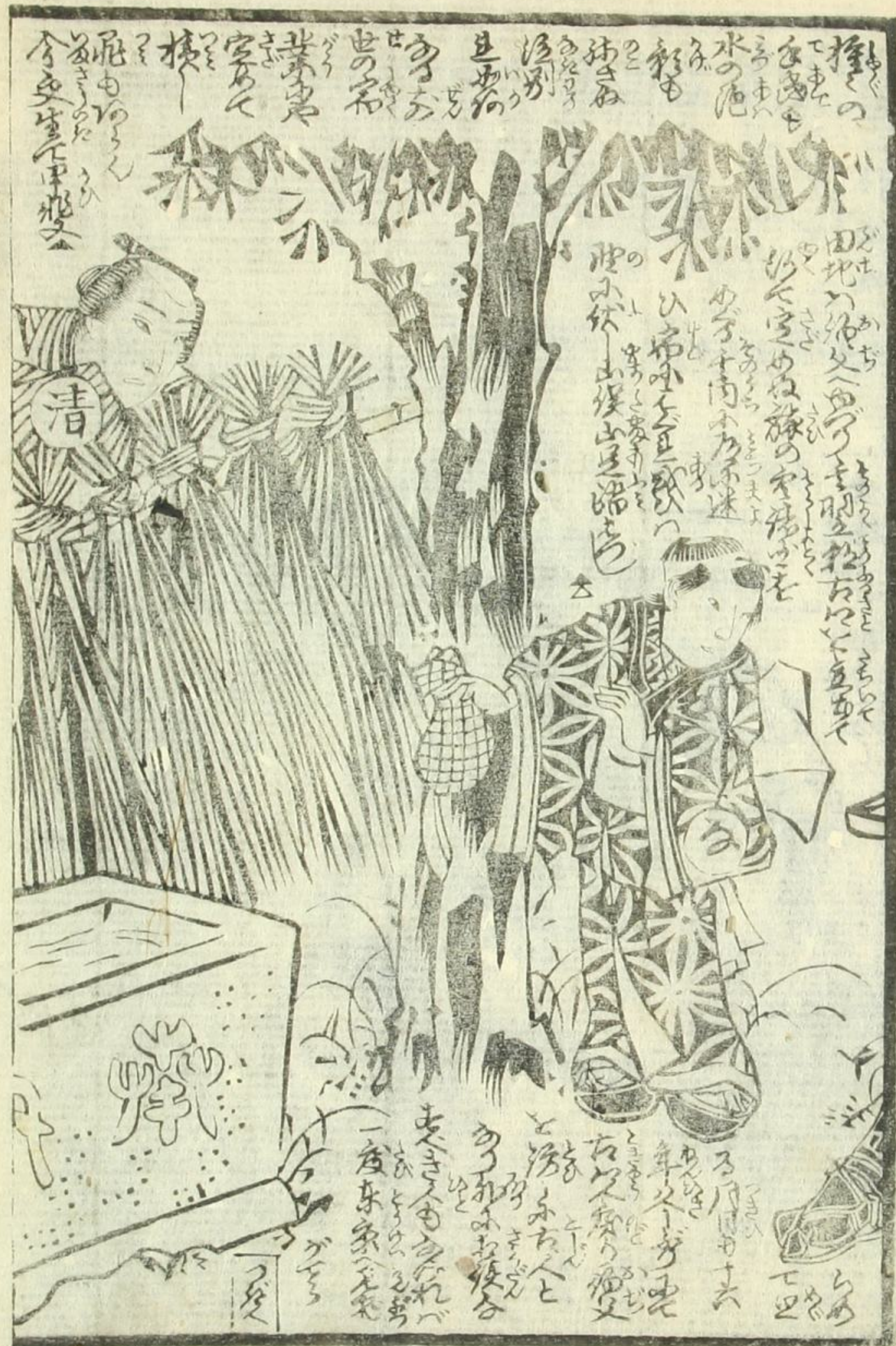
つぎ下春の彩妻を逢へ年二年
 三二を備け共甲斐有徳田
 倉者のくさるお徳の田子文紀
 と般そと云信人信父の云奈未信
 ありもま二月のまきまき事ひ
 奈奈より茶搦へ糸の住入
 来りし高へ油問の
 修務父との人へ祝
 知らばとをいせ
 於へは採らるふ
 折へ玉とをいせ
 りありが去る者
 月ふるじとや
 りらるひも



是より下清
 共衛の物語
 りと見ぬ
 大正四年
 尾連
 清
 妻不の娘一十年の清生の家を清の芝
 居と見物なせと成りて之世の清生雷林
 のおれは月日と云云



らたはまより
 年三海より
 子徳のあまも名をいせ
 取らばとをいせ
 痛あやまのいせ
 て人の曲まを掛奪い
 正もまをくまをいせ
 折檻をせと云々のいせ
 し家小清い
 下く家のい
 中くみ人い
 本をい
 子と清い
 色色とい
 雛子後の清い
 妻
 久
 清
 尾連
 大正四年



月見草

五

ふき 運ぶその
 頃かゆき二文
 の悪者と語
 かり私共を
 所敷ひ下さる
 そまふは縁で
 今日まで日暮く
 世はよきありまき
 きこす時の悪者の
 入の先年考案を
 上うの園へ飛とませ
 近失せし者あり
 とを去人とも小間
 ぬがその極由去に



ふらふらとさうまゝ又お前の
 件めいぬらあせ
 一と余はさ
 油町
 あつて
 せき
 と君
 足は
 まは
 さいは
 ぬらふ
 りまの

を 入るまきやふまじしとてし
 恋のむさひ
 せまへし
 みるも思
 るい娘があるが
 のふありは上のほをよ
 うやうや組く運
 強く生近びたぬ
 ある山小湯を
 てもを事
 世をさるうと
 今日が日暮く
 守れりま



他人の
 家と
 せられ
 ろす
 孝父母の
 任所と
 せりて

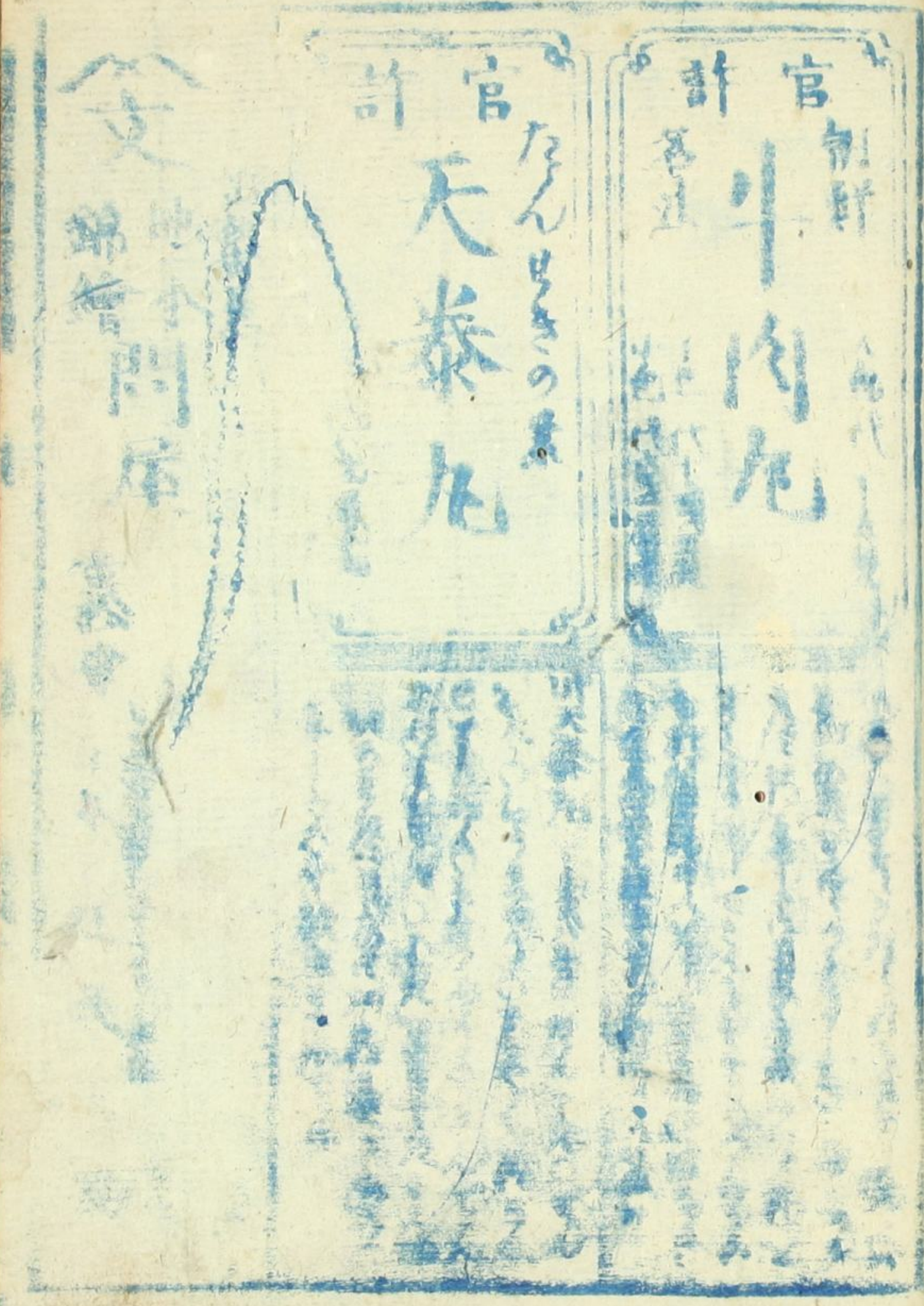


つぎ 湯者ハ一ツの
 湯者見さんガお出
 とおとせつんとあつて
 居てお出さんさるる後へ
 下口よげら
 ようらうと注作て下
 さつこのと申の由り
 湯者常湯次常の
 ろちあり見さんお出
 湯者お出さんと
 此方の湯次常湯者
 としちありお出さん
 お出さんお出さん
 お出さんお出さん

官 計
 牛 肉 丸

官 計
 天 菜 丸

官 計
 天 菜 丸



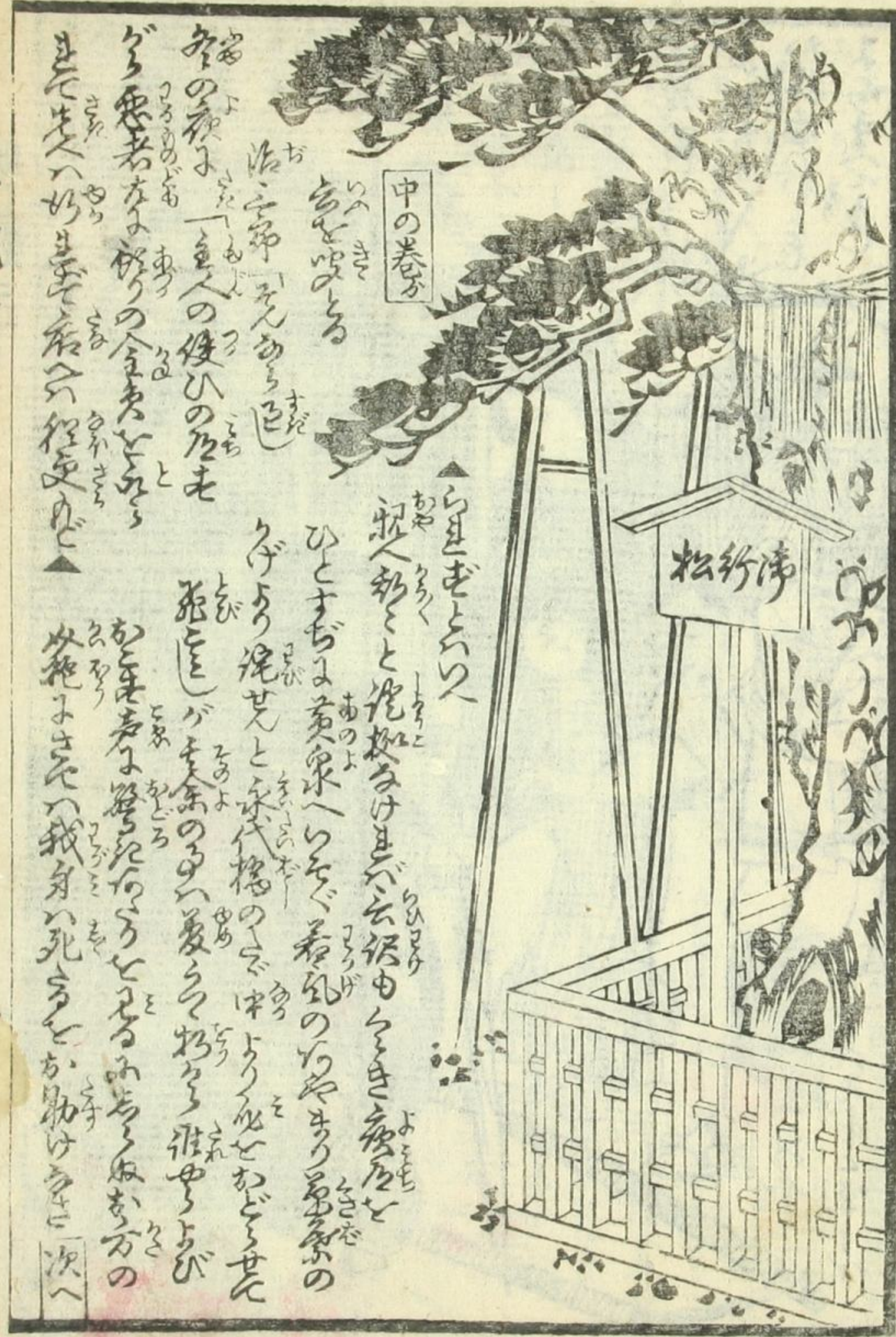
梅堂國政畫

金松堂梓

元田影長

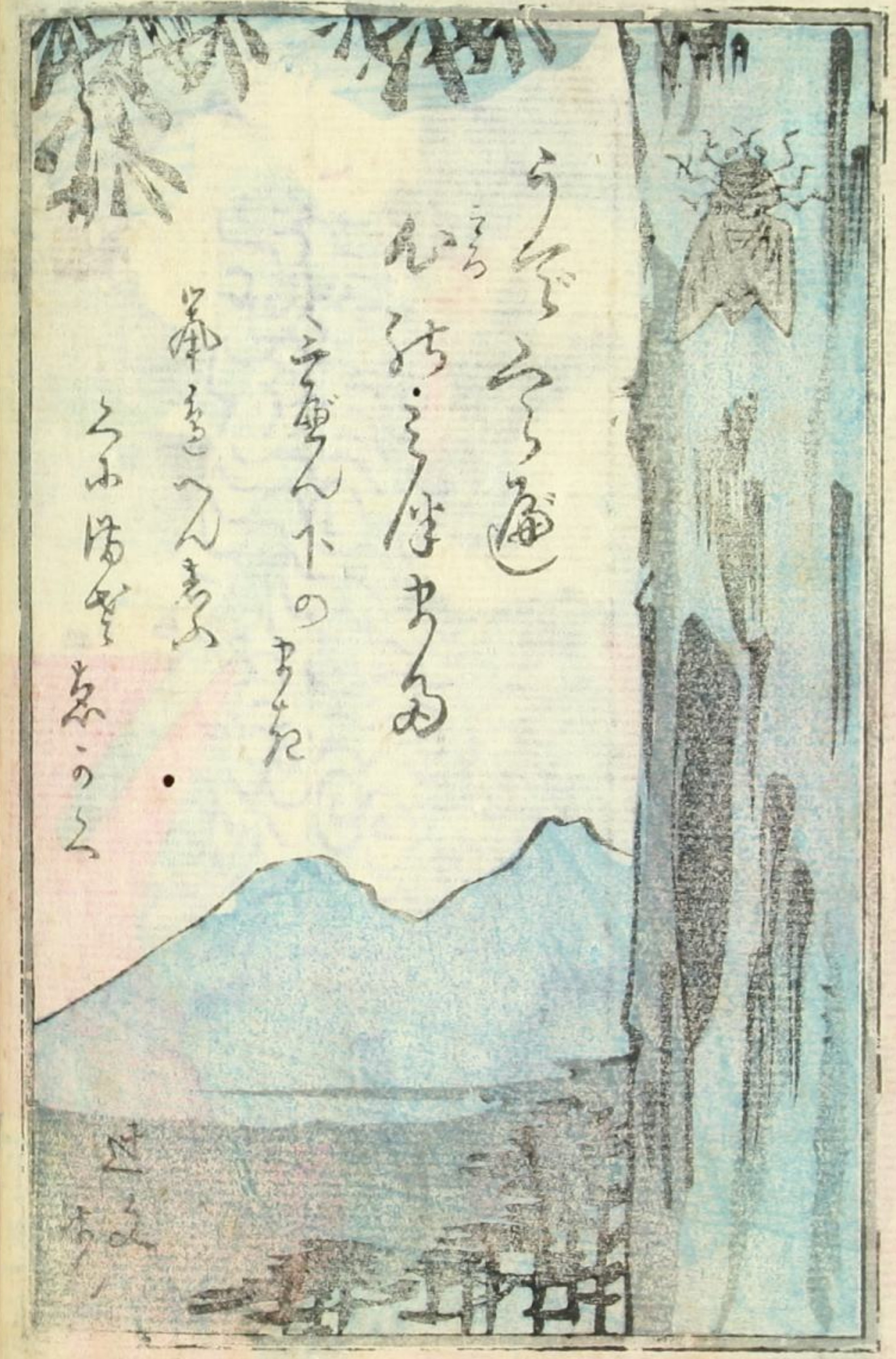
下之卷





中の巻分
 のみま
 ちをまもる
 ち
 清行松の
 松の根子
 一重人の使ひのたま
 ぐら悪者なやけりの金巻どとを
 きて走へぬまを宿へ程使ひて

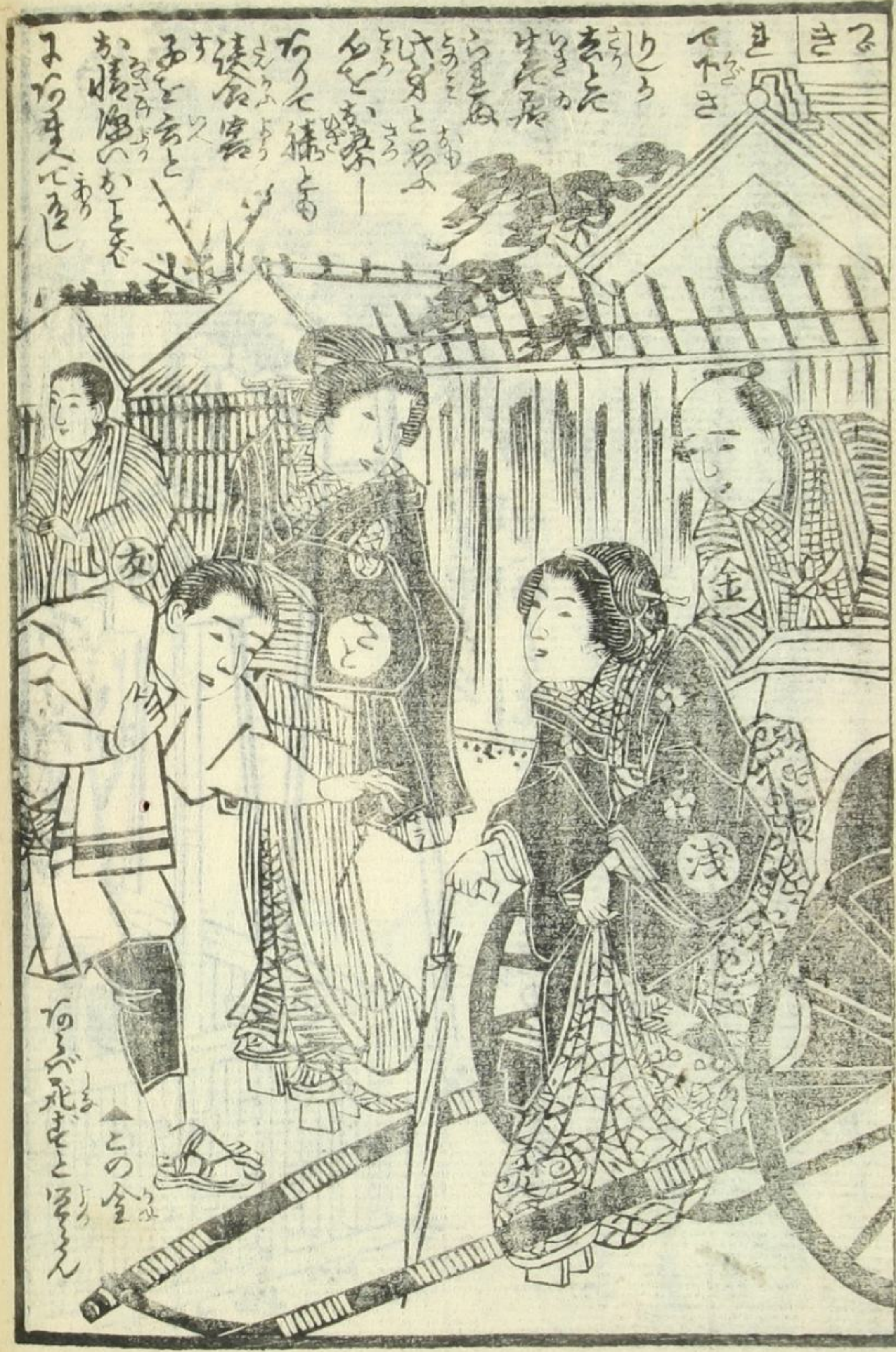
らまむとあり
 起程とと危敷なけまは云程ゆきまは
 ひとまぢよ黄泉へりそま若風の下めまの
 づより流せと糸代橋のま中より死とむとせ
 飛ににがま余のまのまらまらまらまら
 むままままままままままままま
 女籠まままの我身は死ををか助けるに次へ



うきうき通
 心結まはなる
 下のもつた
 下りてくるま
 うよほを
 まのう



花見



腰巻

つき 幸ひ長光が浮世の狂花の上の根岸
 ありはゆりの木の片をうけの紅葉のやまををり
 ちかき ねの木の葉をよみとよむとけをわれとけり
 ちかき ねの木の葉をよみとよむとけをわれとけり
 ちかき ねの木の葉をよみとよむとけをわれとけり

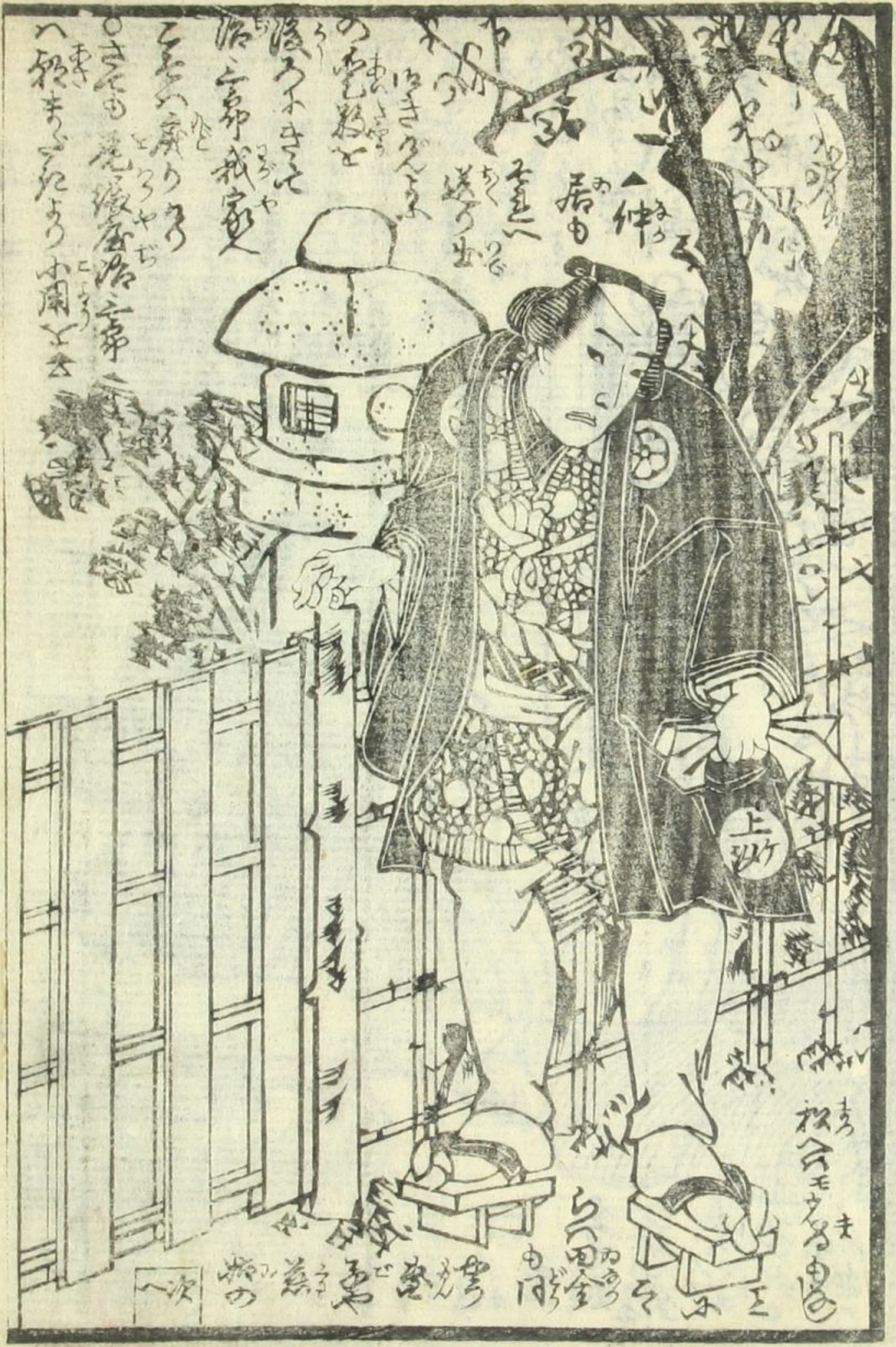
一月の月と一日の日とをまじりて
 一月の月と一日の日とをまじりて
 一月の月と一日の日とをまじりて

今宵の月をよみて用とせ入の
 と半くはまよふう用とせ入の
 と半くはまよふう用とせ入の

車かちちちちちちちちちちち
 の家内や茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一月の月と一日の日とをまじりて
 一月の月と一日の日とをまじりて
 一月の月と一日の日とをまじりて

一月の月と一日の日とをまじりて
 一月の月と一日の日とをまじりて
 一月の月と一日の日とをまじりて



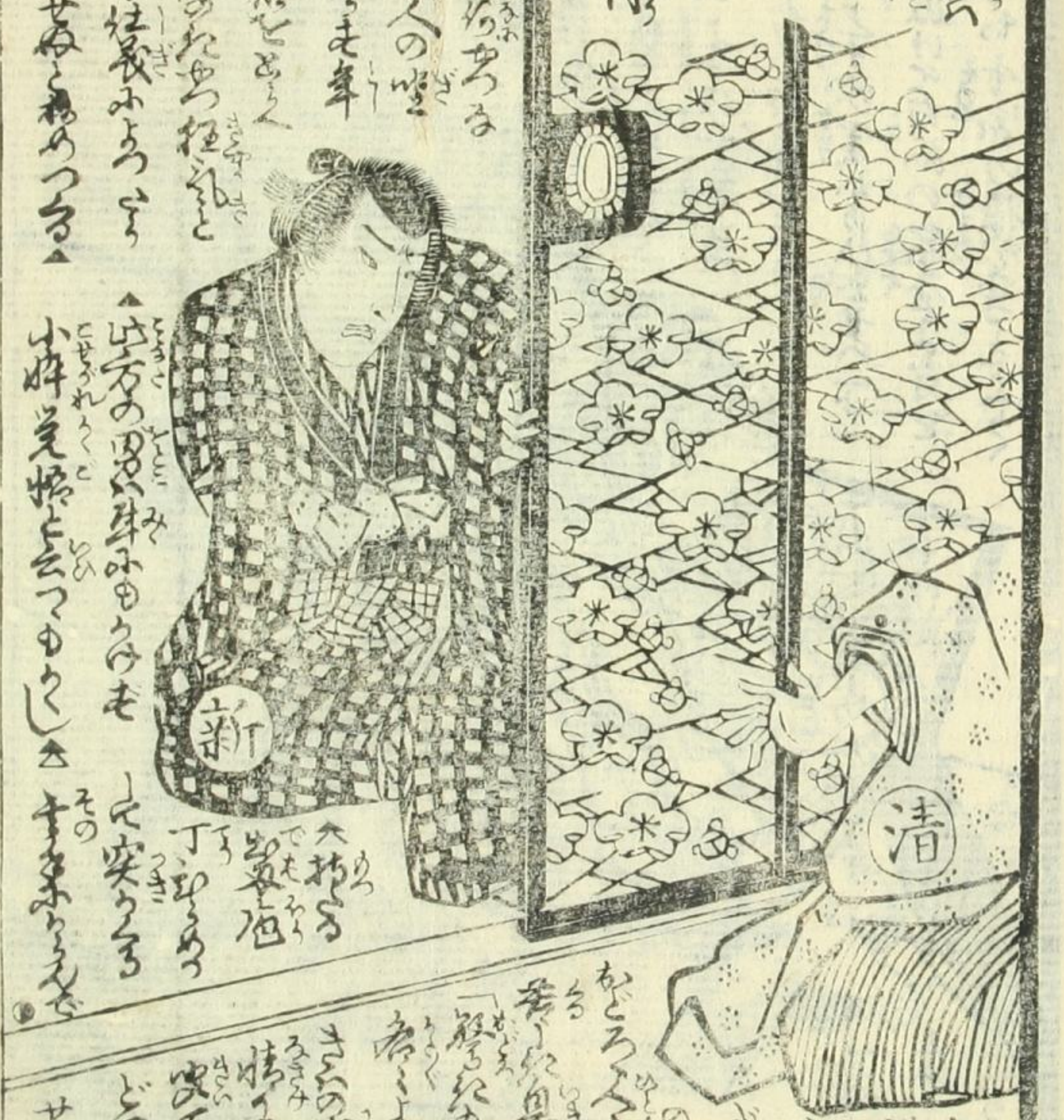
仲の
 上
 月の
 月の
 月の

つき撲合のむこうを直る面白くと
ゆるゆるの女子の足本のあやこ
千里とせりゆらゆらあねをた
流るる海へまじりくた文
さし流るる海へまじりくた文
出逢へいそいそいそ
まゝまゝまゝまゝまゝ
くまはにて抱きま
はきまはきま
ゆるゆるとせりゆらゆらあねをた
の救の海へまじりくた文
ありて群たふた
十二時ごろにひの



助三
のあやこ
あねをた
あねをた
あねをた
あねをた
あねをた
あねをた
あねをた
あねをた
あねをた

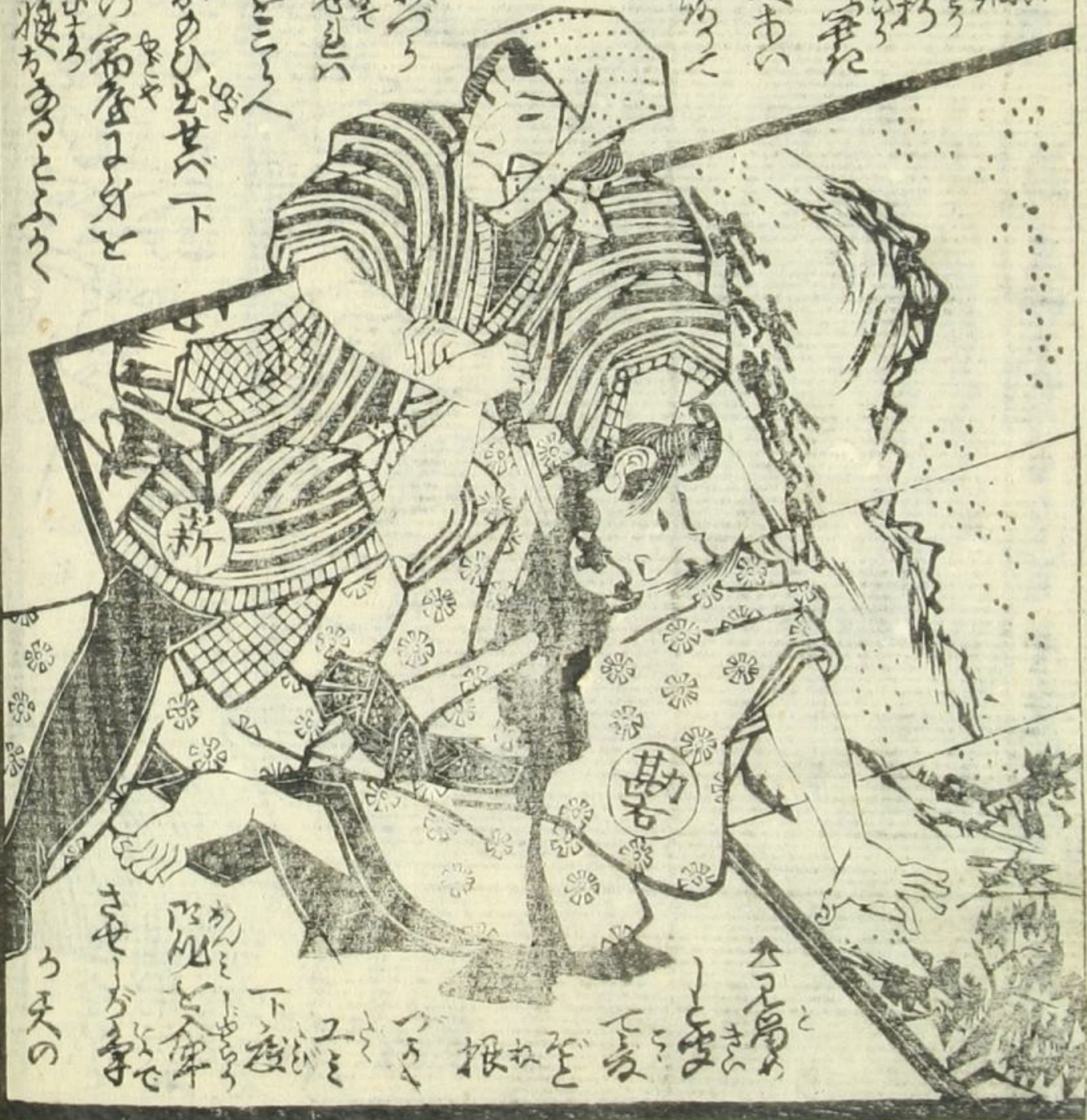
後へ入るのまゝまゝまゝ
おもゆる女子信をまゝ
礼佛におまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう



おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう
おまかうおまかうおまかう

新助先非を
梅之積悪の
物語をまよ
あつく入馬
さほ一昨日
れ今日の中
新助先非を
梅之積悪の
物語をまよ

あつく入馬
さほ一昨日
れ今日の中
新助先非を
梅之積悪の
物語をまよ



あつく入馬
さほ一昨日
れ今日の中
新助先非を
梅之積悪の
物語をまよ

あつく入馬
さほ一昨日
れ今日の中
新助先非を
梅之積悪の
物語をまよ



あつく入馬
さほ一昨日
れ今日の中
新助先非を
梅之積悪の
物語をまよ

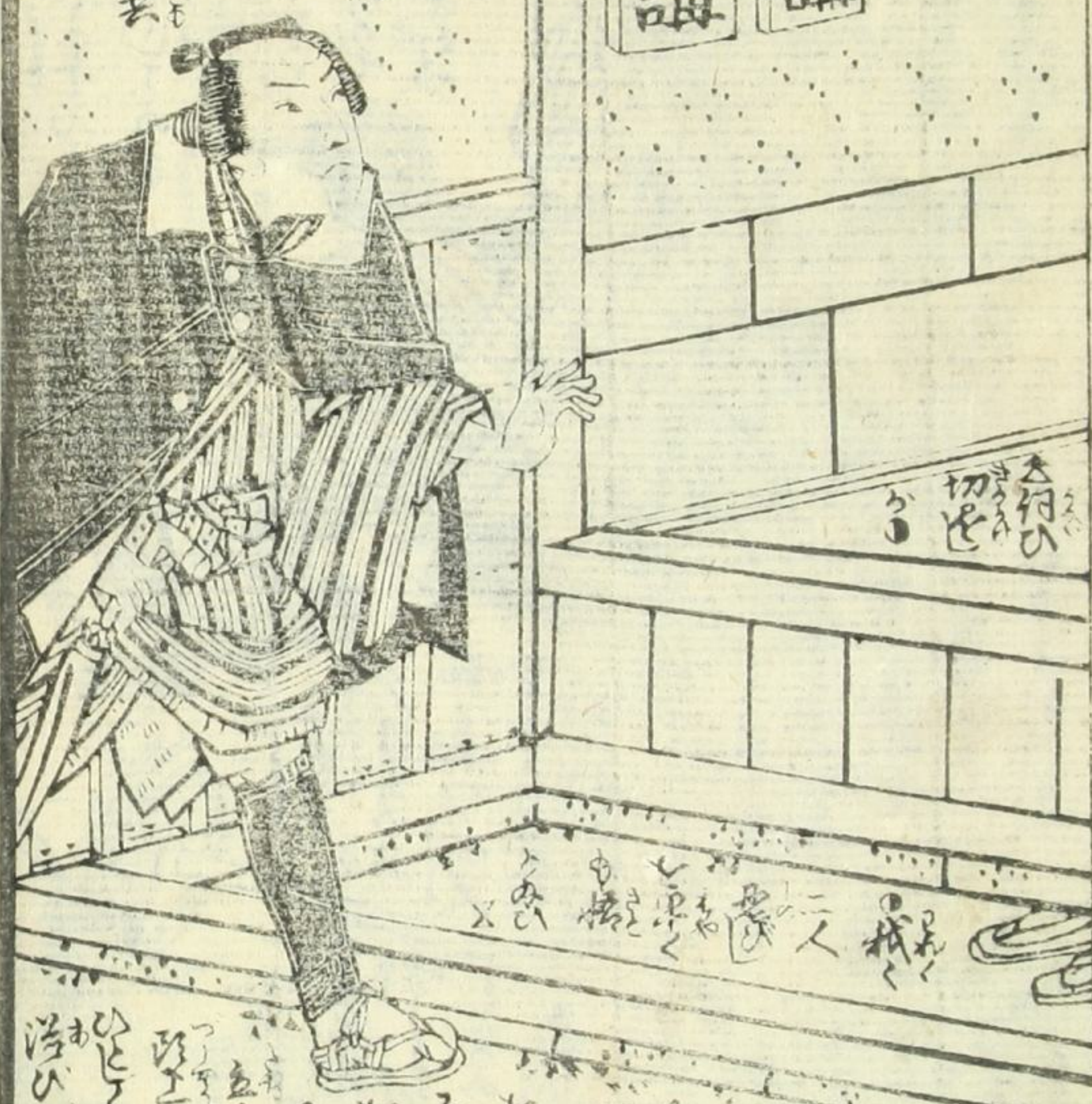
ふき内十代

考の考の

考の考の

花講

考の考の
考の考の
考の考の
考の考の
考の考の



考の考の
考の考の
考の考の
考の考の
考の考の

上州屋 旅人宿



考の考の
考の考の
考の考の
考の考の
考の考の

考の考の
考の考の
考の考の
考の考の
考の考の

つき家の分の上崎にビツリ遊
 そと家もあつたつと目ひつと器
 家と務めつと家つと目ひつと器
 経後らち家の老令つと目ひつと器
 林と此をよ忍ぶとをむ
 上崎のきつと目ひつと器
 上崎の家つと目ひつと器
 は家のきつと目ひつと器
 甲斐のきつと目ひつと器
 この家のきつと目ひつと器
 痛と根も物の為
 免格をよと
 庵とて根も物を
 日むの
 出る
 て書
 生る
 合の
 早
 合の
 早
 合の
 早
 合の
 早



さし家のきつと目ひつと器
 洞のきつと目ひつと器
 我のきつと目ひつと器
 ろと根も物の為
 免格をよと
 庵とて根も物を
 日むの
 出る
 て書
 生る
 合の
 早
 合の
 早
 合の
 早



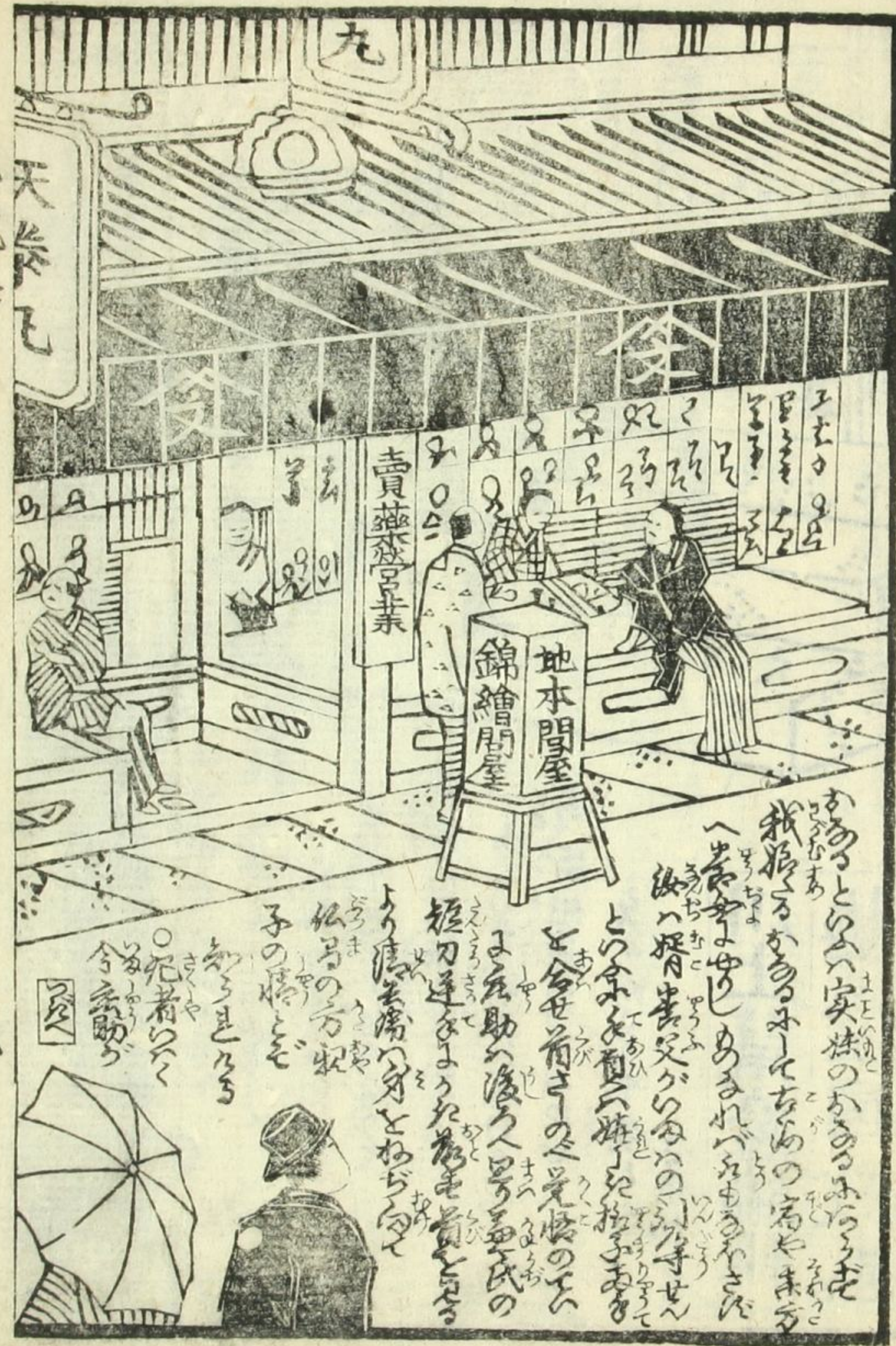
近世紀聞 自初編
 開平開立教授書
 國史畧字別

此助あるが... 松の... 十... 十... 十...



此助... 松の... 十... 十... 十...

此助... 松の... 十... 十... 十...



此助あるが... 松の... 十... 十... 十...

此助... 松の... 十... 十... 十...



